

小湊鉄道開業100周年記念展

「古往今来・発車オーライ！」開催のお知らせ

会期：2025年4月26日(土)―9月15日(月・祝)



2025年春、房総の里山を走る「地域の宝」小湊鉄道が開業100周年を迎えます。1925年、沿線住民1000人が株主となって開業に至り、市原市北部と南部をつなぐ交通の要として地域の発展と人々の生活を支えてきた小湊鉄道。昭和の香りを色濃く残した駅舎や車両は人気のスポットであり、多くの鉄道ファンや地域の人たちに愛されてきました。この小湊鉄道の歴史や魅力をアートによって照らし出し、過去から現在、そして未来へとつなげる展覧会「古往今来・発車オーライ！」を開催します。是非ご取材の程お願い申し上げます。

本展の見どころ *詳しくは別添資料、公式サイトをご覧ください。

- ① 小湊鉄道の古往今来に光を当てた現代アーティスト4人による新作の展示
出展作家：中崎透、青山悟、クワクボリョウタ、中野裕介/パラモデル
- ② かこさとし作『小湊鉄道沿線の旅 出発進行！里山トロッコ列車』原画展
- ③ 小湊鉄道の100年の歩みを振り返る歴史的資料展示
- ④ 会期中に多彩なイベントを開催。普段は見られない機関庫見学会や、鉄道アイドルも登場。

開催概要

名称：小湊鉄道開業100周年記念展「古往今来・発車オーライ！」

主催：市原湖畔美術館（指定管理者：株式会社アートフロントギャラリー）

場所：市原湖畔美術館（千葉県不入75-1）美術館周辺

開館時間：平日／10：00-17：00 土曜・祝前日／9:30-19:00 日曜・祝日／9:30-18:00

※最終入館は閉館時間30分前まで 休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）

入館料：一般：1,000（800）円 / 大高生・65歳以上：800（600）円 *（）内は20名以上の団体料金。

*中学生以下無料・障がい者手帳をお持ちの方（または障害者手帳アプリ「ミライロID」提示）とその介添者（1名）は無料

共催：小湊鉄道開業100周年記念実行委員会

協力：加古総合研究所、ミヅマアートギャラリー、MORI YU GALLERY、早稲田大学鉄道研究会、JR東日本五井駅

取材・広報についてのお問合せ

市原湖畔美術館 三浦・松崎

tel:0436-98-1525 fax: 0436-98-1521

press@lsm-ichihara.jp www.lsm-ichihara.jp



展覧会HP

見どころ① 小湊鉄道の古往今来に光を当てた現代アーティスト4人による新作の展示

中崎 透



1976年茨城県生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科博士後期課程満期単位取得退学。現在、茨城県水戸市を拠点に活動。言葉やイメージといった共通認識の中に生じるズレをテーマに自然体でゆるやかな手法を使って、看板をモチーフとした作品をはじめ、パフォーマンス、映像、インスタレーションなど、形式を特定せず制作を展開している。令和4年度（第73回）芸術選奨新人賞（美術部門）受賞。

“言葉”と“イメージ”の「ズレ」をテーマにしたユニークな作品で知られる中崎透。小湊鉄道社員や地域住民のインタビューにもとづくインスタレーションを、美術館内と高滝駅から美術館までの道のりに展開。鉄道と交差するそれぞれの人生が紡がれていきます。



参考画像《Clothing Fills in the Sky》2021年 撮影：中村脩

青山 悟



1973年東京都生まれ。ロンドン・ゴールドスミスカレッジのテキスタイル学科を1998年に卒業、2001年にシカゴ美術館附属美術大学で美術学修士号を取得。現在は東京を拠点に活動。工業用ミシンを用い、近代化以降、変容し続ける人間性や労働の価値を問い続けながら、刺繍というメディアの枠を拡張させる作品を数々発表している。令和6年度（第75回）芸術選奨新人賞（美術部門）受賞。

工業用ミシンを使い刺繍というメディアの枠を拡張してきた青山悟。小湊鉄道の鳥瞰図からインスピレーションを受けた未来の鳥瞰図を市内の子どもたちと制作。また、近代化を生き小湊鉄道の100年の歴史に刻まれた「労働」を切り取った刺繍作品を展示します。



参考画像《南海トラフジャケット》2024年 撮影：宮島径

クワクポリョウタ



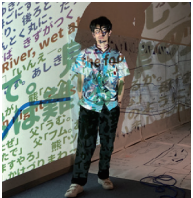
1971年栃木県生まれ。岐阜県・東京都在住。1998年より電子デバイスを素材とした作品制作を始め、2010年以降は光と影によって観る人自身が内面で体験を紡ぎ出すような作品づくりを行う。情報科学芸術大学院大学[IAMAS]（岐阜県大垣市）教授。最近の主な展覧会に2023年「房総の海をめぐる光と影とアート展」（千葉県立美術館）、2024年「南飛騨アートディスカバリー」（岐阜）など数々の芸術祭へ出展。

デジタルとアナログの境界で創造の可能性を問い、光源をつけた鉄道模型を使用した光と影のインスタレーションで知られるクワクポリョウタは、100年前、現在、そして100年後の風景を現出し、無限（∞）のレールを走る小湊鉄道の時空を超えた旅を体感させます。



参考画像《Lost #6》2012年 撮影：中村脩

中野裕介／パラモデル



1976年東大阪生まれ。2002年京都市立芸術大学大学院 絵画専攻（日本画）修了。2001年同大学の林泰彦と活動開始、2003年ユニット名を「パラモデル」に。メタフィジカルな「模型遊び」をテーマに多様な作品を発表。2011～17年の図書館勤務を経た現在のソロ活動では、描画やテキスト・空間表現を軸に、文学・哲学・マンガ・建築・郷土文化・古典芸能など、古今の書物を横断し、題材とする創作を続ける。単著に「まがちの読み、いかれた挿し絵」（青幻舎 21年）など。京都精華大学芸術学部教授。

古今の書物を横断し題材とした創作を続ける中野裕介／パラモデルは、小湊鉄道の幻の路線計画や、房総由来の戯作『南総里見八犬伝』、高滝エリアの旧開発構想など、虚実の出来事を組み合わせ、工事用シートやブラレール、映像や音で遊ぶ大規模なインスタレーションを展開します。



参考画像 個展「よろぼう少年、あなたの道をゆく」>>>《俊徳丸伝説》であそぶ！
2024年 撮影：高野友実

見どころ② かこさとし作 絵本「小湊鐵道沿線の旅 出発進行！里山トロッコ列車」の原画を公開！



絵本『小湊鐵道沿線の旅 出発進行！里山トロッコ列車』より

「里山の風景を守る」「自然との共存」という想いから始まった小湊鐵道のトロッコ列車。日本を代表する絵本作家かこさとしさんがその想いに共感して描いた『小湊鐵道沿線の旅 出発進行！里山トロッコ列車』（偕成社）の原画約20点を展示。工学博士でもあったかこさんが小湊鐵道の歴史、地理、自然を紹介しています。

見どころ③ 小湊鐵道大解剖！！ 過去と現在をつなぐ資料展示



幻の小湊鐵道鳥瞰図（提供：小湊鐵道株式会社）

小湊鐵道の備品や歴史的資料、鐵道写真から映像まで貴重な資料を一挙に公開。小湊鐵道ファンも初めて知る方も小湊鐵道の魅力を感じられる展示です。

（展示協力：市原歴史博物館、早稲田大学鐵道研究会）

小湊鐵道について



小湊鐵道は、房総の玄関口・千葉県市原市五井駅から内陸部の上総中野駅までの39.1kmを縦断するローカル鐵道です。沿線には高滝湖、チバニアン、養老溪谷等の観光スポットもあります。小湊鐵道株式会社は1917年、地元有志によって設立され、現在は路線バス・高速バス・タクシー・ゴルフ場やカフェ等も展開、創業当時から受け継がれる「近くの人を喜ばせたい」という心を次の100年に繋げるため、沿線の方々との交流や里山保全等、地域活性化にも取り組んでいます。



小湊鐵道株式会社HP

見どころ④ 鉄道ファン（または鉄オタ）にも刺さる多彩なイベントを開催

小湊鐵道井戸端会議！



2025年5月17日〔土〕18～20時

会場＝当館、PIZZERIA BOSSO 市原店

ゲスト・講師＝伊藤桃（鉄旅タレント）、石川晋平（小湊鐵道代表取締役社長）、小湊鐵道社員

定員25名

参加費 6000円（入館料込）

本展ツアー後に、隣接するレストラン棟で、房総半島の食材をふんだんに使ったイタリアンを食べながら、小湊鐵道社員と「小湊鐵道のこれからの100年」を考えよう。鉄旅タレント・伊藤桃さんが特別参加！

ワークショップ「青いラインで、ふしぎな《高滝》の地図をひろげよう」



2025年4月26日〔土〕13～14時30分

会場＝当館

講師＝中野裕介／パラモデル（出展作家）

定員15名

参加無料（入館料別途）

アーティストの中野裕介／パラモデルさんによるワークショップ。プラレールをたくさんつなぎ合わせ、小湊鐵道の幻の線路、空想の養老川や高滝湖の、はてのないマップをつくってみよう。

レクチャー「なぜ『小湊鐵道』なのか？」



2025年6月7日〔土〕13～14時30分

会場＝当館多目的ホール

講師＝原武史（政治学者）

定員30名

参加費 1000円（入館料別途）

長年の鉄道ファンで、日本近代史における鉄道をめぐる著書多数の原武史さんをお迎えし、小湊鐵道を出発点に、房総の歴史とそこに秘められた謎の数々を解き明かしていただきます。

高滝駅発—美術館着 Walking Tour



2025年5月18日〔日〕、31日〔土〕12～13時

集合＝高滝駅

各回10名

参加無料

高滝駅から美術館までの徒歩20分の道のりに出展アーティスト中崎透さんが展開した作品を巡るツアー。ツアーでは高滝駅に併設されている小湊鐵道の倉庫を特別公開。

小湊鐵道株式会社主催イベント



機関庫見学

普段は見られない五井機関庫に入ることのできる特別見学会を開催。当日は小湊鐵道現役社員による解説も予定。（日時：2025年5月、8月。定員：各回20名）

運転体験

五井機関庫横にて、今では珍しい気動車の運転体験を開催。（日時：2025年7月または8月。定員：20名）

取材・広報についてのお問合せ

市原湖畔美術館 三浦・松崎

tel:0436-98-1525 fax: 0436-98-1521

press@lsm-ichihara.jp

www.lsm-ichihara.jpイベント詳細・お申込みは
展覧会公式サイトをご覧ください。

広報用画像

※参考画像は実際の展示作品と異なります。

※掲載の際はクレジットの記載をお願いいたします。

※掲載前のご連絡は不要です。校正・掲載後に (press@ism-ichihara.jp) までご一報ください。

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



①中崎透《Clothing Fills in the Sky》2021年参考画像（撮影：中村脩）

②青山悟《南海トラフジャケット》2024年参考画像（撮影：宮島径）

③クワクポリョウタ《Lost #6》2012年参考画像（撮影：中村脩）

④中野裕介／パラモデル 個展「よろぼう少年、かなたの道をゆく▷▷▷《俊徳丸伝説》であそぶ」 2024年（撮影：高野友実）

⑤かこさとし《里山トロッコ列車と四季の風景》「小湊鐵道沿線の旅出発進行！里山トロッコ列車」 2016年（提供：小湊鐵道株式会社）

⑥小湊鐵道沿線の鳥瞰図（提供：小湊鐵道株式会社）

⑦小湊鐵道開業当時のSLと職員（提供：小湊鐵道株式会社）

⑧展覧会バナー